

平成27年度 嬉野市立久間小学校 学校評価計画

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
いきいき久間っ子の育成	≪思いやりの心もち、自分で考え、進んで活動する子どもを育てる≫ ①「学力の向上」・・・工夫して学ぶ子プロジェクト ○伝え合い学び合う活動を通して、書く力や話す力などの表現力を伸ばす ○ICT利活用による授業実践の積み上げる ②「運動への親しみ」・・・強くて逞しい子プロジェクト ○自分なりに楽しめる日常的なスポーツとの出会いを通して運動習慣を身につけ、体力の向上を図る ③「道徳教育の推進」「特別支援教育・教育相談の推進」・・・心やさしい子プロジェクト ○心に響く道徳の授業づくりを通して道徳心の向上を図る ○人権教育とリンクした道徳教育の授業実践 ○特別支援教育の推進体制づくりに取り組む ④「地域連携の推進」・・・地域人材、地域素材を生かした実践の充実 ○久間コミュニティーや中学校と連携した授業・活動の充実

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価				
① 「工夫して学ぶ子」育成に向け、自分で考え創り出す活動の実践				
領域           教育活動	評価項目 ●学力向上    ●ICT利活用教育の推進  ○子どもの活動づくり	評価の観点 (具体的評価項目) 読書活動の充実  家庭学習習慣の確立  獲得した知識・技能を活用し、表現する力の育成  ICT利活用教育の推進  学級活動の充実	具体的目標 ・年間「100冊読書」達成する児童を80%以上にする。 ・家庭学習に取り組む方法が分かり、自ら家庭学習に取り組めると自信を持って回答する児童を80%以上にする。 ・自分の考えをノートにまとめたり、発表したりすることができる児童を80%以上にする。 ・教職員のICT利活用教育に関する基本的なスキルの向上を図る。 ・電子黒板やICT機器を活用した授業を積極的に進める職員を90%以上にする。 ・係活動や当番(日直・掃除・給食)活動で「責任を持って自分の役割を果たしている」と回答する児童を80%以上にする。	具体的方策 ・朝の時間に読書タイムを行い、静かな授業の始まりを迎える。 ・週末読書や読書回覧板(低学年)に取り組み、家庭での読書の習慣化を図る。 ・図書館祭りや読み聞かせを実施する。 ・家庭学習チェックシートに取り組むことで、家庭学習指導の徹底、学習準備の徹底や学習習慣の確立を図る。 ・家庭学習の手引きを配布し、学年に応じた学習時間や内容の充実を図る。 ・家庭学習(自学)ノートコンテストを実施し、更なる内容の充実を図る。 ・授業の中に自分の考えをまとめる時間や伝え合う時間を確保し、表現することの大切さを実感させながら表現力の育成を図る。 ・研究授業等を設定して、児童の表現力を育成する指導力の向上を図る。 ・電子黒板やICT機器等について、校内研修会を計画的に行うだけでなく、支援員を活用してミニ研修会を随時設定する。 ・ICTを利活用した実践の情報交換を行う。 ・学級において、仕事を担う意義を理解させ、計画・実践・ふり返りの時間を保障し、活動の支援や助言を行う。 ・係活動で、当番の活動と自主的活動を意識させて取り組ませる。
② 「強くて逞しい子」育成に向け、進んで運動に親しむ活動の実践				
領域           教育活動	評価項目 ●健康・体づくり   ○子どもの活動づくり	評価の観点 (具体的評価項目) 望ましい生活習慣の形成  運動習慣の定着化  縦割り活動・クラブ活動の充実	具体的目標 ・毎日必ず朝食をとる児童95%を目指す。 ・目標の就寝時刻に寝る児童を90%以上にする。 ・昼休みに外に出てよく遊ぶ児童を85%以上にする。 ・縦割り活動で「他の学年の人と楽しく活動できた」と回答する児童を80%以上にする。 ・クラブ活動で「他の学年の人と協力して活動できた」と回答する児童を80%以上にする。	具体的方策 ・毎月、保健だより・食育だよりを発行し病気の予防法や食事の大切さを保護者に伝える。 ・朝食をバランスよく食べることや睡眠の大切さを保護者や児童に伝える。 ・毎朝の健康観察時に児童の就寝時刻と朝食喫食について調べる。 ・年に3回生活習慣チェックシートを配布し、生活習慣を見直す機会を設ける。 ・いろいろな運動を紹介し、児童に奨励する。(縦割共遊、がんばるマラソン、久間リンピックチャレンジランド) ・外遊びを奨励する。(前期は学級で、後期は全校的取り組みを行うようにさせる。) ・天気のよい日は外で遊ぶように放送で呼びかける。 ・異学年で共通の興味・関心を追求させながら、活動計画や準備を事前に知らせたり、活動中の進行等をしたたりする自主的活動の場を保障する。 ・異学年で交流する楽しさを味わえる、場と時間を保障する。

③ 「心やさしい子」育成に向け、人の気持ちを考える活動の実践

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●心の教育	道徳教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>道徳教育を校内研に位置づけ、心やさしい子の育成と、職員の研修の充実を図る。</li> <li>年1回以上、道徳の授業を公開する。(7月の授業参観「ふれあい道徳」)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>道徳の授業研究会を全学級で実施する。</li> <li>道徳の教科書を活用する。</li> <li>「心やさしい子」プロジェクト部会からふれあい道徳について提案する。</li> <li>ふれあい道徳の実施にあたっては、地域人材の積極的活用や「学校便り」、「学級通信」等を通じた情報発信に努め、広く道徳教育への理解を図る。</li> </ul>
		生徒指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>人の気持ちを考えることができると回答できる児童、80%以上をめざす。</li> <li>自分からあいさつができる児童が、児童・保護者アンケートで80%以上をめざす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>あいさつ、そうじ、思いやりの3点について月ごとに具体的なめあてを設定し、プロジェクト部会を中心に達成状況を評価しながら年間を通して学年に応じた指導を行う。</li> </ul>
		特別支援教育及び教育相談体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援教育について理解し、取り組んでいる職員を90%以上にする。</li> <li>気にかけておきたい子の実態、支援の在り方について共通理解を図り、実践している職員を90%以上にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援教育に関する研修会を実施し、特別支援教育コーディネーターを中心とした支援体制を確立する。</li> <li>毎月の「子ども支援会議」で支援の必要な児童の実態についてスクールカウンセラーを活用しながら情報交換し、支援方法の検討をする。</li> </ul>
	●いじめ問題への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめのない学校づくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人権教室、児童アンケート等を行うことにより、いじめを許さない意識付けを図り、早期発見・早期対応をしながらいじめ「0」をめざす。</li> <li>満足型の学級づくりに100%取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童のアンケートを年2回実施する。(7・12月)</li> <li>児童のアンケートを基に児童との面談を実施し、いじめの早期発見、よりよい解決に努める。</li> <li>「仲間・連帯」「やさしさ・思いやり」をテーマとした人権集会(6月、11月)を実施し、児童の心を耕していじめを許さない心を育む。</li> <li>ハイパーQUの効果的な活用を図るために研修会を実施し、ハイパーQUを実施して、児童の実態把握を行うことで支持的風土のある学級経営を行う。</li> </ul>

④ 保護者・地域との連携を深めるコミュニティ活用の推進

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○保護者・地域との連携	保護者・地域との連携とコミュニティによる学習支援体制づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者の授業参観率を80%以上にする。</li> <li>コミュニティによる学習支援体制を活用した授業や活動を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校だよりやHP等で早めに授業参観日や懇談日を知らせ、保護者が計画的に参加しやすいようにする。</li> <li>各教科や総合的な学習の時間における年間計画を作成し、学校運営協議会を活用してコミュニティと連携強化を図りながら、地域の教育力を生かした取組みを推進する。</li> </ul>

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
	○学校経営方針	本年度の学校目標、重点目標の周知  職員の学校運営への参画	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者に周知し、おおむね知っている人が90%以上になるようにする。</li> <li>学校運営に参画しているという意識が持てたと答える職員を90%以上にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校だより、PTA総会、学級懇談会等で周知し、具体的な取組を説明する。</li> <li>各プロジェクトチームで評価項目・方策を作成・実践し、職員の参画意識を高める。</li> </ul>
	○小中連携教育	小中連携教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>9年間を見通した基本的生活習慣、及び、学習習慣の確立を推進する。</li> <li>「ろくさんプラン」の分科会ごとに、スリーステップで取り組む内容を把握し、100%実践する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小中学校の生徒指導方針の情報交換を行う。</li> <li>小中一貫が可能な授業規律の共通理解を行う。</li> <li>小中職員相互の授業交流(授業参観・出前授業)を行う。</li> </ul>
	●小学校低学年の学習環境の改善充実	学習習慣や生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>話を最後まで静かに聞くことができる児童を85%以上にする。</li> <li>学用品の忘れ物がない児童を85%以上にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日々の授業で話を聞く態度について、随時指導をする。</li> <li>自分のことが相手に伝えられるように話し方の指導をする。</li> <li>「べんきょうのやくそく」を配布し、家庭学習の習慣化を図る。</li> <li>「家庭学習チェックシート」を実施し、家庭と連携を図りながら学習習慣や生活習慣を確立させる。</li> <li>学用品の忘れ物については、個別に指導し、家庭との連携を図る。</li> </ul>

●は共通評価項目、○は独自評価項目